の質にしてしまいますから世の親たる人は此點に充分の御注意を願ひたいものです。

羽子板の話

湘南生

羽子及び羽子板が玩具として價値あるものであることは屢先輩識者に因つて唱導せられた所で。今更之を喋々する必要はないが、併し是れは其押し繪の作り方で却つて折角の教育的價値を害される惧れがある、然るに同じ用い方で又同樣な體育價値を得らる玩具が近頃ボツ〳〵賣り出されて來た。それはトンズと云ふもので羽子は支那人の用ふる羽子の通りで我國の在來のと大體同樣で唯羽根の付け方が玉に押したる柚に一所に縛り付けるのではなくて、是は玉の上部に圓く植えるのである。それから、之を突くものは恰もテニスのラケットに能く似たもので唯作り方が粗末なのと材料が粗末のとが異る丈である。且其重さは通に通常の羽子板より輕いから小さい子供にも便へそうで幼稚園などには至極危險もなく價も廉くて宜しい樣である。吾人は我國在來の押繪羽子板を敢えて排斥もしない。若し其押繪其ものが教育的になるならば、決して之を忌むものではないが、併し同時に此新代用品「トンズ」をも普及したい樣に思ふ價が僅かに拾五錢で羽子板と同樣に遊べる、否却つて普通の羽子板よりは使用し易して面白い樣である。併し又一方から云はせると普通の羽子板も捨て難いものであると云ふ人もあらう。けれどもそは多くは大人の玩具、殊に藝妓などの緣喜的玩具としての話で教育眼から見れば強いて保存したいと云ふものではない之と同等な教育的價値を持つたもので經濟的な代用品があるとすればそれを採つても別段差支ない譯である。普通の羽子板が別段教育的のものでないと云ふことは次の話を見ても知れることである。此話は昨年の暮に或其道の黑人が話したものだとて通信社が報じ越したもので羽子板の過去と現在とが能く悟る序でだから左に掲げて讀者の參考に供する次第である。

今年の羽子板の相場は大體に於て安値でございます、それは桐の相場が一割四分方高値になつたにも拘はらず切れ地の方が不景氣の爲め非常に値安を表はした爲とであります。ですから値段の割合には見榮の好いものが出來るさうですが羽子板の樣なものは世の中の景氣不景氣と特別に關係を持つて居りますから一般に言へば羽子の景氣は惡うムいます。便宜の爲め市内の羽子板商組合で決議した小賣相場を書きます。組合は毎年十一月四日に淺草公園内の自馬で小賣相場を極めます、幹事は日本橋で有名な光月其他で此相場は即ち此時の決議なのでムいます。

尺二並四十錢上五十五錢▲尺三並五十錢上七十五錢▲尺四並八十錢上一圓五十錢▲尺五並一圓六十錢上二圓極上二圓五十錢▲尺八上々三圓七錢極上四圓卅錢▲二尺上々五圓上六圓五十錢

相場は右の通りでムいますが何處の小賣店でも何處の年の市でも此の相場で賣るのではないのです、店によりまして安く賣る所も高く賣る所もムいます、特に年の市などゝ來ては殆んど相場なしで三圓のものが五圓に賣れたり五圓のものが十圓に賣れたり致します、畢竟羽子板などは際物中の際物で殊に一種の緣喜物でムいますからどちらかと云へば虛榮を好み緣喜を好む藝者などが淺草の年の市などで高いものを緣喜が好いからと云ふので高いと知り乍ら其値買つて終ひます、一般の買人から言へば惡い習慣でムいますが之はどうも仕方がありません、淺草の市などで俳優似顏の羽子でも餘り値切りますと若者共は口の惡い人達ですから「千兩役者だ。一晩買つて見ろ五兩や十兩では承知されねえぞ出直して來い」とか何とか言はれますから値切るにも餘程甘くしませんと隨分莫迦を見ます、市は淺草の市深川の市が市内で一番早く立ちます一番早く立つ市の相場が一番高く押詰つて立つ芝愛宕下の市日本橋區藥研堀の市などの相場は法外に安いものです然しそれでも隨分思ひ切つた値を言ひますから此等の市では何でも構ひませんから出來る丈け値切つて遣る方が宜しうムいます。

年の市は前書きました通り淺草觀音のが一番先き

で十七、十八日の兩日に決定しました、十四、十五の兩日は地割で大騒ぎでムりません。それに今年は神田明神の境内に久し振りで市が立ちます。此處の市は五、六年以來中絶して居たのですが神田警察と神主と地借との間に今度漸く交渉が纏つたのだそうです。序に申しますが淺草觀音の市には羽子板店が五十二軒出來るのです。隨分綺麗な事でせう。年の市のお話はこれだけとして羽子板と俳優似顔及羽子板の繪とのお話に移ります▲元來羽子板は德川時代に京都から流行し初めたもので享保羽子板とか、文化羽子板とかは古い御家などでは往々見掛けるものでムいます三越の玩具參考品陳列場にも其中の二三のものがある樣です此外西京羽子板とか左義長式祝羽子板とかありましたが、昔は今の樣に押繪などはありませず皆羽子板の上に胡粉で描き上たもの許であつたのですそれも日本三景、內裏の歌合せ、大極殿草木花卉の如き類が多く人形繪抔は餘り流行りませんでした、それに羽子板は例へて見ますと一寸古代鏡の樣な恰好でムいますから羽子板の天地に孤圓を描き其中に風景などを彩色し鏡に見立てお嫁入道具の玩具の中に加へたものださうです、殊に面白いのは西京羽子板でして之は手に持つ柄の少し上に九ッ許りの穴を穿ち其中に鈴を入れて飾つたものだと云ふ話です。兎に角羽子板は女の玩具ですから近頃の樣に臺に男の押繪特に俳優の似顔などが飾られるのは當然の事ではありませんか。此俳優の似顔が流行り出しましたのは古い人形羽子板に殿樣奥樣三所樣と云ふ胡粉繪が盛に描かれたのが其濫觴で現今では羽子板と云へば殆んど俳優の似顔と云ふ位になりました。昔から女はどうしても男が好きで特に近頃の御婦人は妙に俳優の樣な柔化たものを好む樣になつたと云ふ好固の實例が羽子板の繪に表はれて居て趣味ある事柄ではありませんか。

羽子板に俳優の似顔は附きものである事は前申した通り。それならばどんなのが今年は當りでムいますか。先づ各羽子板店などを御尋ねして聞いて見ますと大體に於て老人連よりも若手俳優の似顔の方が賣口もよく注文筋も多くあるさうでムいま

す。どうしても面白い現象はありませんか。俳優の似顔と云へば直ぐ吉右衛門とか羽左衛門とかに白衣の矢が立ちます。先づ羽左の文覺や斬られ與三郎はどうしても賣口が好い方でせう。羽左の文覺と與三は歌舞伎の當り狂言ですから賣口の好いのは當然ですが源之助の斬られお富、左團次の丸橋忠彌、高麗蔵の仲國、仁左衛門の夕霧、梅幸のお輕、六代目菊五郎の組の辰五郎等も歌舞伎市村座等の當り狂言に出たものですから評判の好い方です。此外駒助の似顔八百藏の似顔も中々莫迦に出來ません殊に駒助は當時急に賣出した俳優ですから花柳界などは駒助〳〵と言つて大した勢ひださうでムいます。以上は舊俳優の似顔でムいますが新俳優の似顔は至つて少なうムります。最も新派劇の役では羽子板としては實際趣味が少ないでせう。十軒店初め各羽子板店を一通り見て來ましたが新俳優の似顔としては白木屋の羽子板部伊井の出世景清二尺物で三圓七十錢と言ふのが一面しかありませんでした。それから二人立と一人立と何れが賣口が好いかと云へば之も相變らず一人立の方が宜しいさうです。以上は大體の羽子板の似顔の品評でムいますが、わたくしの好みを申したら新俳優は兎に角舊俳優の中では六代目の瀧夜叉姫。吉右衛門の光國。梅幸の岩藤。羽左の三浦芝居の時姫。羽左の斬られ與三。源之助のお富。左團次の丸橋忠彌などでムいます。而し之は只參考迄で好き嫌ひは各人各樣ですから數多い羽子板の中から一番好きなのを選んだ方が宜しいのは勿論です。

羽子板の中で一番賣れ口の好いのは。俳優似顔で之は藝者遊女を中心として重に下町向でありましてお屋敷向きではムりませんお屋敷向き山の手向きとしましては勿論見立風俗ものでムりませう。見立風俗といふのは生娘の押繪で之は仲々品の好いものでムります。此外今年から作り出されたものですが時代風俗の押繪も先づ嚴格な家庭向きとして差支へないものと思ひます。そして之等は單に品の好い許りでなく似顔の羽子板などに比べて價格も安うムります。羽子板は元來女の玩具でムりますから普通の御家庭などで似顔がどうのかう

のし言つて様優の論評などをするのは喜こばしい事とはお互ひ様に思へないではありませんか。而し乞は只家庭道徳を主とした考へを一寸述べて見ただけでムりまして、羽子板といふ手工美術品に對して其價値を上下するのではムりません。三越でも松屋でも其他各羽子板店でも今年から羽子板の意匠に就て餘程苦心して居ると云ふ話でムいますが流石に段々と好意匠のを見受けられます。それから白木屋の意匠部では今年から天祿天平式美人羽子板を數十面陳列しましたが。之は畫一面に絹地を張りつめ色模様の浮し繪で漢學の所などは中々高尚優雅に出來上つて居ります。價格は一圓七十錢から三圓位ゐ迄で一面宛白桐の箱に收めてありますから、御進ひ物としても結構でござります▲以上で羽子板の概略をお話しましたが、要するに美術品として見た羽子板は此の七八年間に長足の進歩をした者と云へます。以前には衣裳でも髪でも今日の様に意匠が細かくはありませんでしたが五六年以來臺地には模様繪子の派出なのを用ひて人見を牽き。衣裳は絹地縮緬地から下つて木綿地に至る迄を思ふ様に使ひ分け。殊に髪の如きは在來の漆塗縮子地などを壓倒して熊の毛を用ゐて本式に見せかける所などは進歩中の進歩でムいます▲それから是非一言云つて置きたい事ほ似顔などの顔の畫工の事でムります。羽子板の押繪畫工は東京に現在二人しかありません一人は淺草の周慶で一人は本所の辰さんです。兎に角何千と云ふ羽子板の顔の畫工は二人きりですから値段も年一年と騰る許り。今年などは一面で相場は三十錢ださうです▲衣裳の職工は東京に居ります者全部で六十人之等は一年中此羽子板で生活して居るのですが、大した散入があるものださうです▲羽子板の御話しはこれきりですが來年は戌年の特にお目出度い年でもあり綺麗な羽子板を買つて樂しく年をお迎へなさい。

以上は某氏の話であるが尚序に羽子板製造に就いて大和屋叉山等の話だと云ふのを掲げて見ると

▲職人等の觀劇　尺以下の小物には俳優の似顔も何もなく只名計りの押繪に目鼻を描て板に打付ける許りであるが尺五寸以上の物になると一々俳優

の似顔を取ので人氣俳優の出る各劇場には職人が缺かさず見物し殊に當り狂言などは三度も四度も見物して俳優の着附より科まで仔細に書取つて來るのである斯る一方には

▲面相師　即ち繪師も職人と同じ樣に芝居を見物して此處といふ處を描寫し又は職人より注文を受けて下繪を書くと職人は又意に滿たない所があれば幾度も描き直させ愈々是で好いといふ事になつて始めて押繪に取掛り其押繪が出來上ると再び之を繪師に渡して顔を描かせる而して此出來上つたものを更に

▲上繪師　に渡すと上繪師は又下繪に依つて友禪模樣物其他を描き夫が濟むと職人の手に依て組合せ茲に始めて板に打附けるのである

▲小紋型の新調　職人が苦心するのは其着附俳優者が小紋を着たのに縞を使つては幾等似顔が好く出來て居ても着附が違つては少も映らんから其小紋の出來合があれば好いけれども夫がないと態々更紗屋に注文して其小紋の型を彫らせ之を染めさすのであるが此型紙は圓筒一組であつて中々高い金を拂はせられるとの事だ

▲木綿らしい絹物　又俳優が其役に依ては木綿物を着る場合もあるけれど押繪には木綿を使つては榮えないから此時には木綿らしい絹物を使ふ坏隨分苦心するもので畢竟押繪が篇く其俳優に似ると否は顔坏も大事ではあるけれど最も大關係のあるのは着附に在るからであるさうな

▲上等物　一體羽子板の製造は年が明けると直ぐに又取掛るもので普通五六千乃至一萬位から少なきも千圓位の原料を仕入れ春から其事に掛けて術へ上げ歳の市に持出すのであるが實際之を賣る時期と云へば十日餘しかないのであるから時好に投せんと苦心するのも尤もの事で殊に上等物は九月以後の當り狂言を選ぶのを常とし職人等は其頃の景氣如何んを見て上等物の製造に着手するとの事である